

熱水消毒連動システムの清浄化効果について

明理会中央総合病院 血液浄化療法センター¹ 秀和総合病院 臨床工学部²

○吉見 整 (ヨミ セイ)¹ 黒滝理士¹ 星野武俊¹ 菊池 史¹ 芝本 隆²

【目的】

施設移転に伴い透析システムを再構築し、そのシステムの清浄化効果について検証した。

【方法】

本システムはジェラコールから個人用透析装置（個人用）、溶解装置、透析液供給装置（DAB）およびコンソールまで連動する熱水消毒可能なシステムである。RO 処理水・透析液配管は PVDF によるループ配管とした。消毒方法は DAB：熱水+クエン酸、個人用：熱水とヘモクリーンを併用、ジェラコール～RO モジュール～RO 処理水配管：熱水消毒とした。評価項目は ET と生菌数とし、生菌数は R2A と 37mm モニタで濾過量：200mL とした。サンプリングは、RO モジュール後、ループ配管末端、DAB、コンソールと個人用とした。評価期間は 1 年間とした。

【結果】

ループ配管末端は ET ですべて測定感度以下、生菌数も未検出だった。同じく DAB、コンソール、個人用についても同様の結果が得られた。

【総括】

熱水消毒連動システムは、未消毒配管が存在せず、かつ全自動のため作業労力も軽減され清浄度の高い透析液を安定供給できるシステムと考える。